

第6学年1組 道徳学習指導案

指導者 久留米市立西国分小学校 教諭 未安 由美子

- 1 **主題名** 家族の一員として 4 - (5) 父母, 祖父母を敬愛し, 家族の幸せを求めて, 進んで役に立つことをする。
資料名 「料理は誰がするもの?」(A c 勤労を尊ぶ心) A 内容一致型

2 主題設定の理由

本学級の子どもたちは, 自分のよさや友達のを再発見することを通して, 自分に自信をもち, 互いが大切な存在であることに気づき, 男女を問わず誰とでも自然な関わりを持つことができている。また, 仲よし班活動や委員会活動, 掃除・給食当番活動など自分の役割を果たそうと努力している。しかし, 家での仕事調べアンケートからも分かるように, 家の中の仕事(掃除・洗濯・食事の用意など)は母親の仕事として大部分を占めている。また, 自分の仕事として, 毎日, 風呂掃除などを行っている子どもたちは, 6割程度である。そこでこの期に, 家庭での自分の役割を自覚させ, 家族のために進んで役立つことを実践できるようにしたい。

家族愛とは, 家庭を大切に, 家族の一員としての自覚をもって生活しようとする心であると考えられる。だから, 本資料は, 家庭科の時間, 調理実習で自信をつけた優也さんが家に帰り, 家族を喜ばせようと夕食の用意をしていたときに, 「男は台所に立つものではない」と祖父に注意されるが, 「男がご飯の用意をしてはいけなと決めつけるのはおかしい」と反論し, 夕食の準備をする。そして, 夕食の時間になり, 優也さんが作った料理を食べながら, 料理をすることに対する見方が変わっていくことを通して, 家族が協力することの大切さを気づかせるのに適している。

本指導にあたっては, 家の中にはたくさんの仕事があり, その仕事は女の人ができるものと決まっているのではなく, 家族一人一人が支え合って家庭生活を送っていることに気づかせ, 自分も家族の一員としての役割を果たすことができるようにしたい。そのために, まず, 子どもたちの「家での仕事調べ」のアンケートから気づいたことを出し合い本時のめあてを捉えさせる。次に, 「料理はだれがするもの?」の資料を範読し, 家族構成を確認する。そして, 優也さんの家族のそれぞれの考え方をを見つけ, 交流する活動を通して, 男女の区別なく家族で協力することの大切さに気づかせたい。さらに, 家族の一員として自分ができることを考え実践への意欲をもたせたい。

3 計画(1時間)

家の中の仕事調べをさせる。(課外)

- 1 資料「料理は誰がするもの?」をもとに, 家庭での自分の役割について話し合わせる。... 1
(本時)
家族の一員として自分ができることを実践させる。(家庭科「家族と楽しく食事をしよう」)

4 本時

平成18年11月15日(水)5校時(14:15~15:00)6年1組の教室にて

5 主眼

優也さんの家族のそれぞれの考え方について, 進んで自分の考えを交流することができる。

家族の幸せのために, 自分には何ができるかを考え, 家庭での自分の役割を自覚し, 家族のために積極的に役立つことをしようとする心情を育てる。

- 6 **準備** 家での仕事調べ一覧表

7 展開

	学 習 活 動	指導上の留意点
導 入	<p>1 家での仕事調べ一覧表をみて、気づいたことを出し合い本時学習のめあてをつかむ。</p> <p>家庭の中の仕事は誰がするのか、決めつけていることはないか話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・洗濯，掃除，食事の用意など <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>めあて：料理は誰がするものと決まっているのかどうか考えよう。</p> </div>	<p>家庭の中の仕事に対して、決めつけた見方をしていないか考えさせる。</p>
展 開	<p>2 資料「料理は誰がするもの？」を読み、自分なりに優也さんの家族のそれぞれの考えをノートにまとめ、それをもとに話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・優也さん...家族を喜ばせようと進んでご飯とみそ汁を作っている。おじいさんから男は台所に立つものではないと言われても、ご飯の用意を男がしちゃ行けないと決めつけるのはおかしいと反論している。 ・お母さん...優也さんの話を聞いてくれて、自分の考えに自信をもちなさいと励ましてくれた。 ・お父さん...優也さんの料理をほめてくれた。 ・おじいさん...料理は女がするものと思っていた自分の考えを変えた。 ・お母さん一人で後かたづけをしていたのに、みんなで協力して後かたづけをするようになった。 <p>3 料理は誰がするものと決まっているのかどうか話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの家庭で協力し合って生活しているのだから誰がしてもよい。 	<p>教師が資料を範読し、家族構成を確認する。</p> <p>家族のそれぞれの考え方を見つけ交流させることで、優也さんの思いやおじいさんの心の変化を捉えさせる。</p>
終 末	<p>4 家族の一員として自分ができることをまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・休日の仕事は自分で作るようにしたい。 ・風呂掃除はこれからも続けたい。 ・夕食の後かたづけはぜひ、やっていきたいなど。 	<p>男女の区別なく家族で協力することの大切さに気づかせる。</p> <p>本時学習を振り返り、家族が協力し合うということはどういうことか考えさせる。</p> <p>家族の一員として自分ができることを考え実践への意欲をもたせる。</p>